

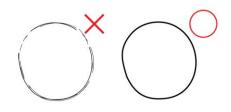
スケッチの描き方

■はじめに

生物実験におけるスケッチは、生物の特徴や重要な構造と形態を表現するものである。デッサンとは異なり、 見えたままを描くものではない。スケッチをすることで、対象の細部まで観察する姿勢が身につく。

■留意点

- ① スケッチを描くときは、先のとがった 2H、 3H などの硬い鉛筆を用いる。
- ② 細部まで表すことができるように、なるべく大きく描く。
- ③ 最初に薄く輪郭を描き、修正しながら、濃い線で仕上げると描きやすい。ただし、生物のスケッチでは、 構造を線で表すため、輪郭は1本の連続した線で描く(図 1a c)。
- ④ 黒く見えても塗りつぶす必要はない。濃淡を表現したい場合は、密な部分や不透明な部分を点描し、斜 線などは使わない(図 1b)。
- ⑤ 見えるものを全部描く必要はなく、意味のある構造のみを表現し、同じ構造の繰り返しの場合は、繰り 返しの一部のみを描写して、残りは省略してもよい(図1d)。
- ⑥ 目的に応じて、最も適した標本を探し出し、スケッチする。顕鏡した場合は、微動ハンドルと絞りを調 整して、立体的に観察したものを総合的にスケッチする。視野の円い輪郭を描く必要はない(図1 d)。
- ⑦ スケッチだけでは表せないところは言葉で表現してもよい。
- ⑧ 描いた標本の実際の大きさがわかるように、スケールをいれる。



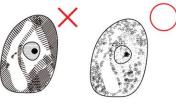
a) デッサンのように、複数の線を 残してはいけない。



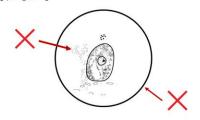
c) はみ出したり、途切れたりしないで 丁寧に書く。途切れると、間隙がある ことになる。



濃淡は鉛筆で点描する。



b) 斜線や塗りつぶしは、そのような 構造があることになってしまうので、 使わない。



d) 顕微鏡視野の円は描かない。 ゴミや観察対象外のものも描く 必要はない。

図1 スケッチを描く時の留意点